

おお大勝利

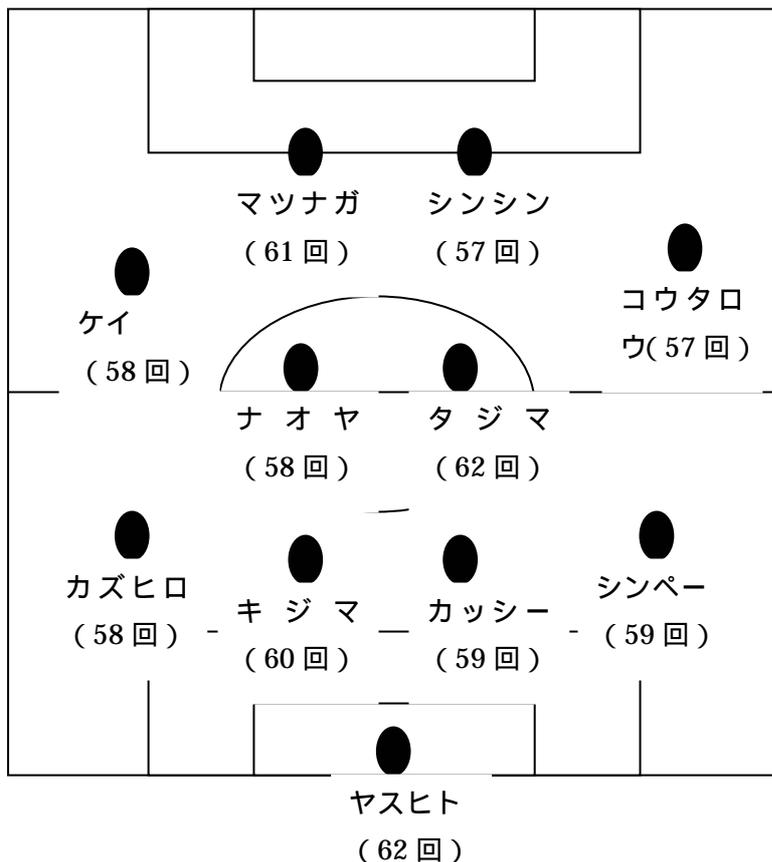
平成 23 年度山東サッカー部報番外編 超特別号 (8 月 26 日)

顧問今野が山東に赴任し、はや 6 年目。常々、今野の頭にはあったのだが、選考から漏れた選手のことやこれから現われるであろう優れた選手に気兼ねして、発表できずにいた、山東ベストイレブン！ ただし、今野が赴任して以降の引退者から選出。となると、コウタロウの代 (山東 57 回卒、以下 57 回と表記) ナオヤの代 (58 回) カオルの代 (59 回) キジマの代 (60 回) コウスケの代 (61 回) そして今年引退したタダの代 (62 回予定、以下予定省略) 計 6 代から選ぶことになる。発表できずにいたのは、上記の理由の他にも、今野の優柔不断さにより (というか良い選手に恵まれて・・・ハイ) 11 人に絞り切れなかったからなのです。

しかし、考え直しました。11 人に絞れなかったら、2 チーム作ったらいいじゃないか・・・ん～何てすばらしい考えなんだ！ といひかなぜ今までそれに気付かなかったのか！！

ということで、A チーム、B チーム発表します。A チームのコンセプトはストロングチーム、B チームのコンセプトはドリームチームとなります。寝ないで考えたわけではありませんが、眠れない日に暇だったので選考理由含めて考えました。どうぞ、楽しんで下さい (といってもこれをすべて楽しめる人は相当山東フリークです 正直、後藤報道局長くらいでしょう)。

【A チーム】 4 - 4 - 2 ボックス型 (4 - 2 - 2 - 2)



チームの特徴

まず何と言っても、FW が野獣。技術は？だが、体の強さとスピードが半端ない。山形のチームなら、二人だけで点数を取ってきそうな感じがする。

ボランチのナオヤは、今まで選手で見た中でピカイチのセンターハーフ。視野の広さ、技術（特にロングキックの技術）、ハートの強さ、どれもすばらしい。私の中の評価では、42 回卒のアキヨリさんを超えています。タジマはナオヤに視野の広さ・技術では到底かなわないものの、ルーズボールの読み・反応速度・頭の回転スピード（判断のスピード）はナオヤ以上。タジマを少し低い位置で守備的に使ってナオヤを活かしたい。タジマはゴールデンエイジ期（9 歳くらいから 13 歳くらい）にしっかり技術を磨いていたら、ナオヤ以上のセンターハーフになったと思われる。そこが悔やまれる。

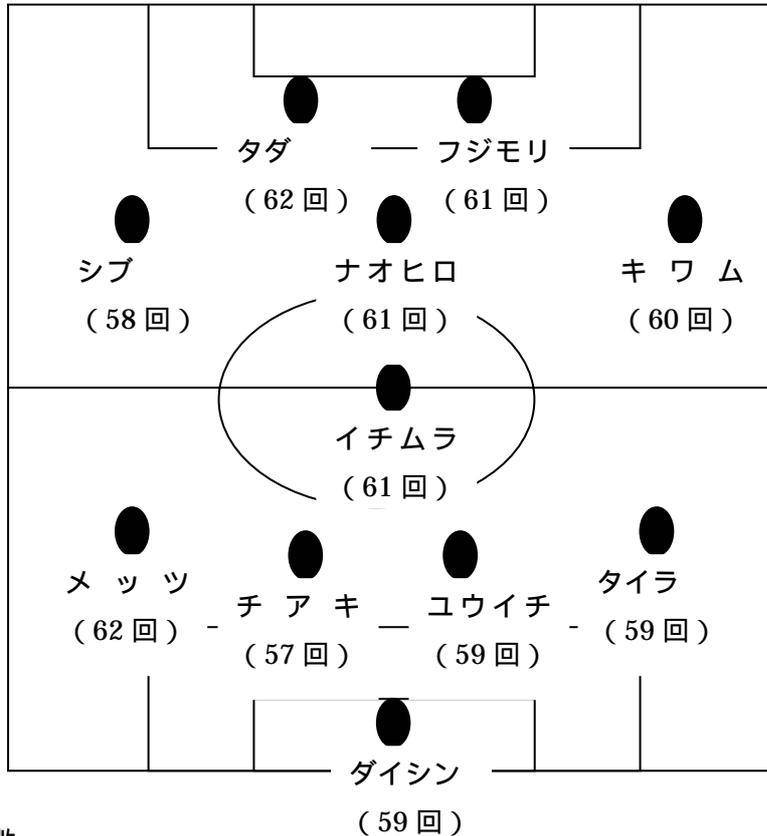
そしてカッシーとキジマの CDF。堅すぎる！ 正直、高さ、速さ、巧さをすべて兼ね備えた両 CDF であり、こんな選手を二人も一緒に CDF で持ったら、安心して見ていられます。二人は攻め上がっても活躍できる。キジマは山形で有名で、カッシーはそれほど名が通っていなかったが、二人を高 3 の時のレベルで比較してみても、私からすると甲乙つけられない。

アウトサイドにもスピード系、技術系と特徴ある選手が揃っている。右サイドバックのシンペーの右足のキック技術とカバーリング能力、右サイドハーフのコウタロウの縦のスピードと鰹節ヘッド（鰹節のような細い体で、熱さでしなる鰹節のように体を前後に動かせる、それでいて打点の高いヘッド）そしてハッター、左サイドのケイの万能性（ドリブル、パス、ヘディングいずれも質が高い）、左サイドバックのカズヒロのイヤらしい目つきとイヤらしいプレー（正確なトラップ、パス、そして敵の意図を読むクレバーなポジショニングと対人プレー）。ん～、どれもすばらしい。

GK は正直山東の悩みどころだが、やはり A チームはヤスヒトだろう。フィジカル能力ではやや劣るものの、セービング・ハイボールの処理・ブレイクアウェー（1 対 1 の対応）いずれも及第点。一番良いのがディストリビューション（配球）。FW へのライナー性のキックによって、GK からカウンター攻撃が可能となる。このチームであれば、強豪チームに攻め込まれても、ヤスヒトのキックで二人の野獣を走らせて一点取れそう。

全般的には、攻撃に関して、（ケイとナオヤは例外だが）技術のレベルから言って高いボールポゼッション率はあまり望めないが、カウンター攻撃の威力は半端ないだろう。それでいてカッシーとキジマの CDF が守備をするんだから、苦しい試合でもモノにできる。二人の CDF のレベルは、ハシケン（42 回）とヒロシ（43 回）の往年の野獣 DF もしのぐ。A チームは、間違いなく山形県を勝ちぬくし、当たりによっては、全国でも何勝かできるであろう。

【Bチーム】4 - 4 - 2ダイヤモンド型 (4 - 1 - 3 - 2)



チームの特徴

まず触れておきたいのが、全体の構成。4バックで最終ラインに人をバランス良く配置しつつ、CDFの前に1枚アンカーを置き、バイタルエリアをケアしつつ、何と云ってもこのチームの要！ 3人の魅惑のMFを配置した、名付けてスリーファンタジスタシステム！ いや～、これを思いついた時、正直布団の中でニヤついてました。ちょっと守備は不安だが、そこはチャキ、ユウイチのCDFにアンカーのイチムラを加えた正三角形、名付けてガールハンタートライアングルが敵をもハントしてくれれば(タラレバです) 何とかなるんじゃないか？ ダメかな。まあ守備はいいんです。とにかく3人のファンタジスタが、自分でドリブルしたり、パスしたり、二人のFWを使って、バンバンと、しかも華麗に攻める。ん～、このチームの監督になってみたい！！

FWのフジモリとタダは、ベストイレブンのBは当確。正直Aに入れてもおかしくないが、あちらのFWは野獣というコンセプトなので、洗練された二人はBで。フジモリは私が見た選手の中でも3年間で最も伸びた選手。もっと高校サッカー生活があったら、もっともっと伸びたでしょう。とにかく反転の巧さとシュートのセンスはピカイチ。先日日韓戦で香川が右からのグラウンダーのセンターリングを右足で流し込んだ3点目、あの足の使い方とその後のボールの軌道はフジモリでたびたび見ていました(香川を見て、申し訳ないことですが、あっフジモリだ、と思ってしまいました)。タダは、ドリブル、スペースへの飛び出し、ポストプレーいずれも高いレベルでこなす万能型。タダを2年までずっとCDFにコンバートして使ってきたため、フジモリ(61回)とタダ(62回)とか、マツナガ(61回)とタダ(62回)というFWのコンビは見れずじまいでしたが、今思えば、これらのコンビの化学反応は興味がある。

スリーファンタジスタの技術・エレガントさは、知っている人からしたら、言葉はいらぬ(知らない人に今から説明しますが)。まず、シブは巧い、以上。いやいや、

それじゃダメですね。シブのすごいところは、みんなはドリブルだと思っていたかもしれませんが、私にとってゴール前でも冷静でいられるところが最大の魅力でした。要は慌てないMF。ん～、最近山東で見えていないタイプです。シブに指示を与えても聞いてんだが聞いてないんだが・・・恐らく聞いてなかったんでしょうが、とにかく、顧問の発言にも動じない。キワムはトリッキーさで言えば、Aチーム、Bチームで第一位。とにかく、敵をあざむくのが上手い。フィジカルはないものの、それを補って余りあるサッカーセンス。サッカーセンスの塊と少しのお世辞も含めて述べておきましょう。しかし、そんなキワムも、陰ながら人一倍の努力をしていた選手であったことを最後に申し添えておきます。そして3人の中で最後はナオ。常にフェイントをかけながらプレーしている。そこはキワムに通じるところがある。ただ、キワム以上に周りをを使うのが上手かった(キワムは自分で突破を狙うタイプであった)。必殺のスルーパス！ という表現がぴったりのプレーを何度見たことか。いや～、この3人の化学反応は、空想の世界だけでも面白い。

アンカーはイチムラ。2年までチャランポランなプレーが多く、正直才能をムダにしていたが、3年生になってからのボランチのハマリ具合はスバラシイの一言。攻守にわたり、レベルの高いボランチでした。1、2年でもっと修正させてやれてれば、もっともっと伸びた、少なくともタジマを抜いてAに入ったでしょう。そうさせてやれなかったのは、指導者の問題と反省しています。

そしてDF。チアキは正直、3ヶ月くらいしかプレー見てないんであまり細かなこと言えませんが、安定感のあるCDFであったと記憶しています。以上。ユウイチはまず、ハートが良い。派手さはないが、体を張ってチームに貢献してくれる頼りがいのあるCDF。ユウイチとカッシーとがCDFで組んだときには、「山東のCDFは堅いから、サイドから攻めろ」と、よく相手チームの監督が指示を出していたっけ。プーマカップにて熱射病で記憶喪失したことも、Bに選ばれた要因の一つ(ウソ)。タイラは本職はFWなのだが、タイラをどうしても入れたい。なので空いている右サイドバックで選考。このポジションでは、カズキ(60回)やヤスオ(60回)、カツラギ(61回)も捨てがたいとの思いはありましたが、やはり県総体での活躍からいって、タイラを外すことはできません。無尽蔵のスタミナの持ち主ですから、右サイドバックを任せても、長友のように、何度も上下動してくれるでしょう。左はメッツ。もともと、技術があるのは知っていましたが、私からすると、ジュニアユースのサッカーとユースのサッカーとの壁を乗り越えるのに苦労した選手。2年生までは、球際の弱さや右足偏重のボールの置き所、そして体のキレ、いずれも県のトップのレベルからは程遠く、最後まで伸び悩むのでは？と心配されましたが、3年生になってからの選手としての完成具合はスバラシイの一言。ものすごく頼もしい左サイドバックでした。

最後にGKはダイシン。身長を含めて、フィジカルに恵まれていたわけではありませんが、生来の？ストイックな性格で、自分の持てる才能をすべて開花させた選手であり、その意味で忘れ難い。上の代のGKはヨネノ、下はタクヤ、と、チャランポランな(性格の)GKに挟まれつつ、自分を見失わなかった。そこは評価できる。

まあ、こんな感じで、言いたい放題でしたが、卒業生からの要望の多かったMy Best Eleven、楽しんでいただけましたでしょうか。これにて終了。